



### <今号のクリニカルアート>

#### 『光と色のステンドグラス』

作者 溝口中学校 生徒全員  
先生方、地域の皆さん



伯耆町議会

検索

### おもな内容

- 決算認定 ..... 2～3ページ
- 決算審査 ..... 4～5ページ
- 委員会レポート ..... 6ページ
- 委員会レポート・陳情 ..... 7ページ
- 特集 中学生アンケート「未来の町長たちの提言」… 8～9ページ
- 一般質問 ..... 10～19ページ
- 議会の虫めがね 表紙みどころ ..... 20ページ

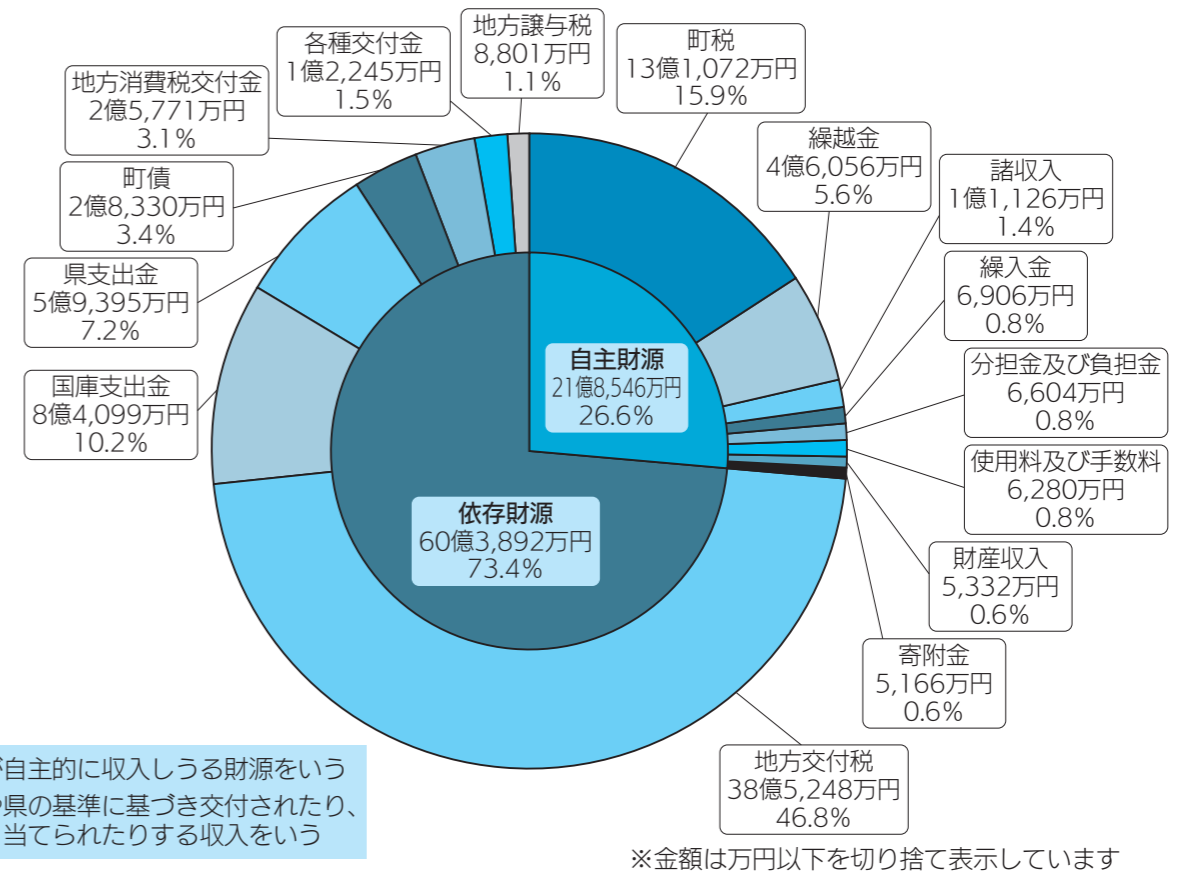
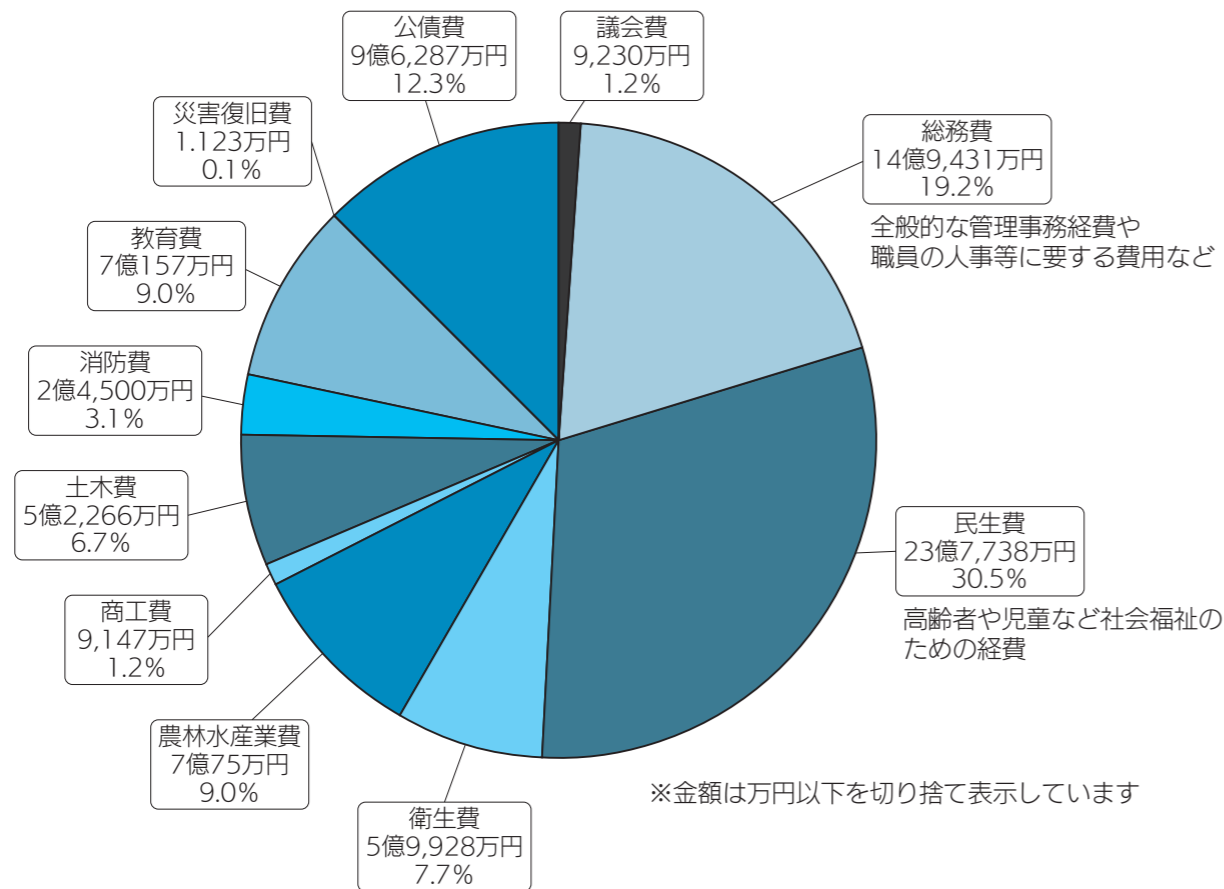
# 一般会計 多くの生活支援事業実施・健全な財政を維持

前年度(令和5年度)決算額と比較し歳入歳出とも増額、実質収入は約4億円の黒字

9月定例会が、9月3日から19日までの17日間の会期で開催された。

**歳出(支出) 77億9,882万円**  
(令和5年度比1億8,101万円増+2.4%)

**歳入(収入) 82億2,438万円**  
(令和5年度比1億4,601万円増+1.8%)



自主財源：町が自主的に収入しうる財源をいう  
依存財源：国や県の基準に基づき交付されたり、割り当てられたりする収入をいう

## 監査委員 決算審査意見



代表監査委員  
井上 望

令和6年度は物価高騰が一層進み、町民生活もさらに厳しさを増す中、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を財源とした低所得者への給付金事業、ガソリン等購入助成券配布事業などの支援事業の多い年であった。

一般会計の収支の状況は令和5年度の実質単年度収支△6,944万円に対し、令和6年度の実質単年度収支は△3,502万円であったが、基金の増加は9,400万円となり実質的には黒字の決算である。

(中略)

令和7年1月から町政も新町長の下でのスタートとなった。町民の声を反映した施策の実現に向け、職員一丸となって取り組むことを期待して令和6年度伯耆町歳入歳出決算審査の意見とする。



監査委員  
渡部 勇

## 各会計の決算状況

区分		歳入	歳出	
特別会計	町営公園墓地事業	935万円	377万円	
	住宅新築資金等貸付事業	47万円	2,302万円	
	地域交通	1億1,879万円	1億1,879万円	
	国民健康保険	13億5,861万円	13億4,099万円	
	後期高齢者医療	1億9,648万円	1億9,592万円	
	丸山地区専用水道事業	1,175万円	1,175万円	
	索道事業	2,533万円	3,639万円	
企業会計	水道事業	収益的収支(税抜)	3億1,054万円	2億5,420万円
		資本的収支(税込)	7,520万円	1億8,448万円
	下水道事業	収益的収支(税抜)	5億1,444万円	4億5,539万円
		資本的収支(税込)	2億4,343万円	3億2,860万円

# 決算審査

## 6年度決算を厳しくチェック

### 予算決算等常任委員会

全議員で本委員会を開き、6日間にわたり、令和6年度の決算について慎重に審査しました。各課から説明のあった主な事業は、次のとおりです。

- ◆総務課 「ふるさと納税推進事業」 決算額：1,691万円  
インターネット等を活用してPRを行った。  
ふるさと納税寄付者に伯耆町特産品を送った。
- ◆分庁総合窓口課 「溝口駅前整備事業」 決算額：1,331万円  
老朽化した水銀灯をLEDに取り替えた。  
劣化していた区画線やカラー舗装を修繕した。
- ◆企画課 「町制施行20周年記念事業」 決算額：114万円  
伯耆町制20周年の記念として町勢要覧の修正及び記念映像を作成した。
- ◆地域整備課 「道路除雪車両維持事業(繰越明許)」 決算額：1,594万円  
適切な除雪を行うことができるよう、除雪車両の購入を行った。
- ◆教育委員会 「給食センター管理事務費(学校給食費補助金)」 決算額：3,200万円  
小・中学生ともに1食あたり222円(11月以降は232円)補助を行い、  
家庭の負担軽減を図った。
- ◆産業課 「新規就農者育成総合対策事業」 決算額：771万円  
新規就農者に対し、機械や施設等の導入及び経営開始資金を支援した。
- ◆福祉課 「ゆうあいパルクキッズスペース整備事業」 決算額：888万円  
使用されていなかったレストランスペースを改修し、  
キッズスペースを整備した。
- ◆住民課 「ガソリン等購入助成券配布事業」 決算額：8,233万円  
物価高騰の影響を受けている家計を支援するため、  
ガソリン等購入助成券を配布した。
- ◆健康対策課 「子育て世代包括支援センター事業」 決算額：219万円  
母子保健や育児に関する悩みに対応し、  
保健師等が専門的な見地から相談支援を実施した。

### 審査意見と回答

#### 1. 職員研修

**意見** 自主的に専門研修を受講する職員が少ない。資質向上のため体制の見直しを。  
**回答** 県や市町村アカデミーの研修に加え、町独自の研修も計画。  
多忙の中でも受講しやすい体制を検討。

#### 2. 企業版ふるさと納税

**意見** 実績は2件。周知が十分でなくPRが必要。  
**回答** 貴重な財源。今後は個人のふるさと納税と合わせて積極的にPR。

#### 3. 中学校部活動の地域移行

**意見** 進捗や課題が町民に伝わっていない。情報発信を。  
**回答** 推進計画をホームページで公表済み。今後は協議会の内容も節目ごとに広報で紹介。

#### 4. 町の施策に関わる重要事項

**意見** 重大な事項は、議会にも協議・報告を。  
**回答** 必要に応じて協議・報告を行う。

#### 5. 中学生生活習慣病予防教室

**意見** 有効な事業。関係機関と連携して継続を。  
**回答** 毎年中学2年生を対象に実施。6年度は岸本中で調整つかず未実施。  
今後は早めに調整し継続。

### 私はこう判断

件名	議員名(議席番号順)												会議の結果		
	埴田信二	其山守美	杉田真也	大床桂介	上田博文	森下克彦	長谷川満	杉本大介	乾裕	永井欣也	渡部勇	大森英一		勝部俊徳	
一般会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
町営公園墓地事業特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
住宅新築資金等貸付事業特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
地域交通特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
国民健康保険特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
後期高齢者医療特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
水道事業会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
丸山地区専用水道事業特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
下水道事業会計剰余金の処分及び決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決認定
索道事業特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	認定

(○…賛成、×…反対) ※勝部議長は採決に加わりません

### 現地調査



溝口駅前整備事業



ゆうあいパルクキッズスペース整備事業

決算審査とは、町が1年間に使ったお金を「ちゃんと使えたかどうか」議会がチェックする大切な仕事です。みなさんから預かりした税金が、町のために有効に使われているかをしっかりと確認し、次の予算や政策につなげていきます。



## 委員会レポート① 議会広報の充実を目指して

広報常任委員会では、議会広報の向上と議場での効果的な資料提示方法を調査し、伯耆町議会の運営改善に活かすため、7月30日から8月1日までの3日間、佐賀県武雄市・基山町、福岡県大刀洗町に現地調査を行った。

調査委員 大床桂介委員長・埴田信二副委員長・永井欣也・長谷川満・杉田真也・其山守美

### 武雄市



議場でのモニターによる資料提示

### 基山町



「中学生議会」の運営方法

### 大刀洗町



全国広報コンクール「最優秀賞」作成方法や工夫

今回の知見を参考に、広報活動の質的向上と効果的な資料提示の実現に向けた検討を進め、住民の皆さまに開かれた、より活性化した伯耆町議会を目指す。

## 委員会レポート② さらに教育環境の向上にむけて

文教民生常任委員会では、学校教育施設での外構等を調査し、更なる教育環境向上に活かすため、7月14日に、二部、溝口、八郷、岸本小学校、及び溝口、岸本中学校の現地調査を行った。

調査委員 乾裕委員長・其山守美副委員長・大森英一・勝部俊徳・杉本大介・大床桂介



文教民生現地調査（二部小学校の校舎裏の様子）

学校教育施設の除草や環境維持作業については、現在、教職員やボランティア（PTA、団体）等が中心に行っているが、状況に応じ予算化して、整備していく必要があるのではないか。

## 谷川地内で土質改良プラント及び改良盛土事業の実施

全員協議会で全議員に説明がありました。

### ○開発事業概要

**事業名**：溝口砕石場跡地における土質改良プラント及び改良盛土事業

**事業主体**：株式会社 大協組

**事業予定地**：伯耆町谷川988番地1 外9筆

**事業期間**：令和7年10月上旬 ～ 令和27年9月30日

**事業面積**：259,379㎡

**事業内容**：令和6年11月をもって廃止された溝口砕石場の跡地において、

建設発生土を受け入れ、改良剤と混合し改良土を生産するプラントを設置する。



## 9月定例会みなさんからの請願・陳情はこうなりました

請願・陳情に対する各議員の賛否（令和7年9月定例会）

陳情番号	議員名（議席番号順） 件名	結果	塔田	其山	杉田	大床	上田	森下	長谷川	杉本	乾	永井	渡部	大森	勝部
			信二	守美	真也	桂介	博文	克彦	満	大介	裕	欣也	勇	英一	俊徳
6	（仮称）鳥取西部風力発電事業に反対の決議を求める陳情	趣旨採択	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	鳥取県西部風力事業に関する陳情	趣旨採択	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	鳥取西部風力事業に関する陳情	趣旨採択	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	鳥取西部風力事業に関する陳情	趣旨採択	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	鳥取県西部風力事業に対する要望書	趣旨採択	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	鳥取西部風力事業に関する陳情書	趣旨採択	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（○…賛成、×…反対）※勝部議長は採決に加わりません

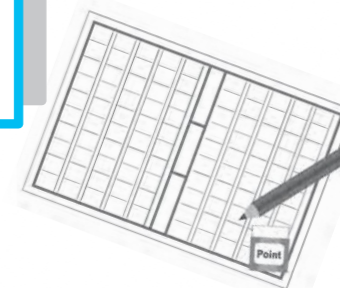
# 未来の町長たちの提言

※写真とコメントはランダムにしています。



伯耆町では、第4次総合計画の策定に向け、7月に無作為で抽出した16歳以上の町民1,500人を対象に「まちづくりアンケート」を実施しました。あわせて、町内の中学生を対象とした「中学生アンケート」も行い、若い世代の声を集めました。

本ページでは、その中の設問「あなたが町長になったら、ぜひやってみたいことは」を取り上げ、中学生の皆さんから寄せられた意見を紹介しています。未来を担う世代ならではの自由な発想やまちへの思いを、ぜひご覧ください。



## ▶ 生活の安全・安心を守る

- ・街灯の増設で夜道の安全を確保
- ・終電時間を遅らせ、帰宅をしやすく
- ・歩道を丁寧に整備（段差や草の問題解消）
- ・高齢者に安全機能付き自動車への補助金を交付

## ▶ 地域をもっと元気に！

- ・人口増加のため、移住者への住居提供
- ・所得の少ない高齢者に田舎暮らしをアピール
- ・観光施設（キャンプ場など）を整備し、交流人口を増やす
- ・大山周辺の神社仏閣をPRして歴史と文化を伝える

## ▶ 生活の利便性を高めたい

- ・駅にICOCAを導入し、乗り降りをスムーズに
- ・本屋さんをつくり、文房具などを近場で買えるように
- ・公衆電話を増やして、緊急時に連絡できるように

## ▶ 地域にもっと遊び場を！

- ・公園や屋内施設（スタバ、ROUND1、映画館、バッティングセンター）をつくりたい
- ・芝生のサッカー場を整備して、多くの人に楽しんでもらいたい

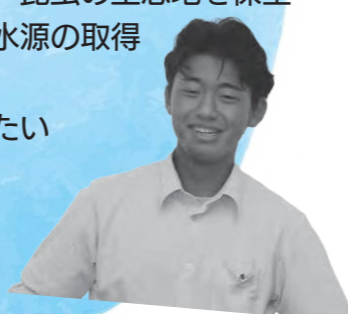


## ▶ 新しい教育・スポーツの形

- ・部活動ではなく町全体で運営するクラブチームを作りたい  
(指導者は町の大人、選手は町の生徒)

## ▶ 環境と未来を考える

- ・ナラ科の植物を守り、昆虫の生息地を保全
- ・外国人による土地や水源の取得への対策
- ・人口減少を食い止めたい



## ▶ 教育にも新しい風を

- ・校外学習を増やし、地域と関わる機会を多くしたい
- ・夏休みをなくし、毎日5時間授業で明るいうちに帰れるように
- ・他校と関わるイベントを開き、交流の場を増やす

## ▶ 通学や生活の環境整備を

- ・バス停を増設し、交通の利便性をアップ
- ・大殿から中学校前まで橋を架け、移動を便利に
- ・体育館にエアコンを設置して、快適な授業環境を実現

## ◆ まとめ

両校の生徒たちからは、**遊び** **交通** **環境** **福祉** **教育** など多方面にわたる提案がありました。共通して見られたのは、

**地域をもっと住みやすく・楽しくしたい** **人が集まる町にしたい** という前向きな思いです。

子どもたちの視点には、今後の伯耆町をより良くするヒントが詰まっています。

皆さんは、どんな伯耆町にしたいですか？



# 一般質問 町政を問う!

一般質問とは、議員が町長・教育長等に対し、町の仕事全般や教育などについてその取り組みや将来の方針について問い、その趣旨を明らかにします。また新たな政策の提言をします。

## 9月定例会では13人中9人が一般質問を行いました

令和7年9月3日(水)開催

### 乾 裕 議員

- ・ 出産後の女性の搾乳環境の整備を
- ・ 避難所の準備状況に関するアンケート調査について
- ・ 認知症高齢者等対策事業について

### 上田 博文 議員

- ・ 中山間地を守る農業施策について

### 杉田 真也 議員

- ・ 鳥取西部風力発電で土砂災害等の起きた際の復旧費用負担は発生するのか
- ・ 鳥取西部風力発電稼働後の固定資産税で町の財政は潤うのか
- ・ 岸本中学校の水道水について

### 其山 守美 議員

- ・ 風力発電計画に対する町長の判断は
- ・ 休園中の二部保育所の活用を
- ・ 小規模特認校制度の導入検討を

### 大森 英一 議員

- ・ 風力発電事業による町政への影響について

### 長谷川 満 議員

- ・ 集落放送にLINEの併用を推進すべきでは
- ・ 全国レベルのジュニアアスリートへさらなる支援を

### 森下 克彦 議員

- ・ 基金を活用した物価上昇、生活経費増加への対応策について
- ・ 標語柱などの管理について

### 永井 欣也 議員

- ・ 土砂災害等の防止に向けて
- ・ 文化財の保護・保存・活用の方向性は

### 杉本 大介 議員

- ・ 就学前まで切れ目のない乳幼児健診を

### 一般質問のルール

○質問は事前に通告 ○持ち時間は1人60分 ○町行政、教育に関係あるもの

一般質問の様子はYoutubeで配信しています。二次元バーコードはこちら!



# 出産後の女性の搾乳環境の整備を

町長 搾乳環境の整備は必要



いぬい ゆたか 乾 裕 議員



ユーチューブ  
動画は  
こちらから

**問** 出産後の女性は体が母乳を作り続ける。授乳回数が減り母乳がたまった状態を続けると、乳腺炎になったり、母乳の量が減ってしまう可能性もある。こうしたことから、公共施設の授乳室で搾乳できる環境整備に取り組み自治体が増えている。本町の取り組みは。

**答** 町長 女性が安心して働き、子育てとの両立を図る上でも、搾乳環境の整備については必要と考えている。

**答** 総務課長 授乳室は現在「ゆうあいパル」「溝口体育館」「B&G海洋センター」に設置している。ゆうあいパルでは搾乳に必要な流し台、椅子を設置し、搾乳可能を知らせるカードを掲示している。溝口体育館、B&G海洋センターにつ



ゆうあいパルのキッズルーム



施設内にあるカード掲示

いては、今後、搾乳環境についてマークの掲示も含め整備を図っていく考えである。

## 避難所の準備状況は

**問** 本庁舎に授乳室を整備する考えは。

**答** 町長 女性の休憩室の中に授乳スペースの設置を検討したい。

**問** 災害時における避難所の準備状況は。

**答** 町長 地震での避難所における避難者を1,065人と想定している。この場合生活空間（一人当たり3.5平方メートル）およびトイレ数（災害発生初期段階では50人につき1基）の確保は満たしているが、日野川が氾濫した場合では、被災者の権利保護をうたう国際基準「（※1）スファイア基準」をい

地域防災計画の改定を進めており対応を検討したい。

## 認知症高齢者等対策事業について

**問** 認知症高齢者等対策事業での対象者数および加入者数は。また行方不明の事例は。

**答** 健康対策課長 認知症高齢者日常生活自立度（※2）IIa以上の方は492人。加入者数は30人。過去の案件では2件の事例があり、いずれも無事に保護されている。

**問** 令和6年度からGPS発信機などの購入補助を始めていますが、実績は。

**答** 健康対策課長 実績はない。

（※1）…国際基準「スファイア基準」とは、災害や紛争の被災者が尊厳ある生活を送るための人道支援における国際的な最低基準。自然災害の避難者支援にも活用される。

（※2）…IIaとは認知症高齢者の日常生活を計る評価基準の7段階の1つである。家庭外で買い物忘れ、事務のミス、金銭管理ができないなどの症状がみられる段階。

# 10年後の中山間地を守る農業施策は

町長

担い手を確保し、認定農業者、

集落営農組織の育成支援を推進



うえだ ひろふみ  
上田 博文 議員



ユーチューブ  
動画は  
こちらから

**問** 令和7年3月末に町内を6地区に区分けした「地域計画」が策定され、ホームページで「地域計画」と「目標地図」が公表された。この策定により、10年後の伯耆町の農業に対して、どう感じられ、今後、必要な農業施策は何か。

**答** 町長 岸本地域では担い手の集積が見込まれるが、溝口地域は、高齢化により規模拡大の意欲が希薄である。今後は、担い手農家の不足を補うため、新規就農者や認定農業者及び集落営農組織の育成を支援し、持続的に経営できる仕組みを行う。このため担い手の確保、農地の保全と適正利用、農産物の適正価格の形成、国県事業の活用を目指す。

**問** 「地域計画」での担い手の基準及びメリットは何か。

**答** 産業課長 基準は、認定農業者、水田面積3ha以上の経営者、所得安定対策に取り組み集落営農組織、作業受託組織であり、担い手のメリットは有利な国・県の補助事業が活用できる。

**問** 「地域計画」の住民への周知は。

**答** 産業課長 毎年、情勢に合わせて3月にホームページで周知を図る。

**問** 本町の遊休農地・再生不能な荒廃農地はどれくらいあるか。

**答** 産業課長 現在、遊休農地は17ha、荒廃農地は32haで

あり、5年前に比較して遊休農地が7ha、荒廃農地が9ha増えている状況である。

**問** 県補助事業の「農地中間保有地再生活用事業」などをもっと活用し、町としてもっと遊休農地の解消に向けて積極的に取り組まないか。

あり、5年前に比較して遊休農地が7ha、荒廃農地が9ha増えている状況である。



ほ場整備地内での荒廃農地

**答** 産業課長 水田については、必要はないと考えるが、畑地については推進していきたい。

**問** 小規模農家も、中山間地の農地を維持するためには不可欠であるが、この小規模農家に対する支援は。

**答** 産業課長 主に町では、農業収入保険料と緊急支援事業での支援である。

**問** 小規模農家で構成する営農組織に対する「大型機械共同購入事業」について、現行、補助率が2割であるが、増額の検討を行わないか。

**答** 産業課長 大型農業機械導入については、町単独事業よりも有利な（※）「鳥取県集落営農体制強化支援事業」に取り組みよう推進していきたい。

（※）  
○鳥取県集落営農体制強化支援事業  
・対象 集落営農ビジョンの策定した集落営農組織  
・補助率1/2（県1/3・町1/6）  
・補助上限 1,050万円  
・補助対象 農業用機械・付帯施設の導入、オペレーター育成費用

# 風力発電で災害が発生した場合の復旧費用は

町長

事業起因の災害の場合  
事業者が負担し復旧する



すぎた 杉田 まさなり 議員



ユーチューブ  
動画は  
こちらから

**問** 建設予定地および風車の基数、大きさに変更がと報告を受けている。基数は32基から22基へと減少し、高さは150メートルから196メートルへと変更されている。1基あたり出力も4,500キロワットから6,500キロワットに増加した。風車の大半は伯耆町への建設予定であり土砂災害のリスクの高いエリアであると認識している。

土砂災害が発生した場合の復旧費用の負担はどのようになるのか。本町が負担する可能性もあるのではないかと。

**答** 町長 原因が風力発電事業に起因すると断定できる場合は、事業者が費用を負担し災害復旧を行うと理解している。災害の原因が気象状況等による自然災害である場合は、災害の規模やケースによって対応が異なる。住民の方々への影響が直接あ



能登半島地震の風力発電被災地

る場合は、本町が直接復旧を行い、復旧支援を行う場合もある。また、国や県の財政措置の制度も活用できることから、本町が一部費用を負担する場合もある。

**問** 災害発生時の責任や費用負担をめぐって、事業者と本町のどちらがどの範囲を負担するのか、予め整理、明確化して

おく事が重要であると考えただけだ。

**答** 町長 最も考慮しなければならぬのは住民生活の安全である。本町が一切費用を負担しないとは断言できないが、災害の原因が事業者に起因する場合、または異常気象の条件を満たさない状況で発生した場合には、事業者が責任があると考える。

## 風力発電の固定資産税で町の財政は潤うのか

**問** 当初の計画規模では、風車1基あたり約9百万円の固定資産税がみこまれるとの説明があった。

固定資産税収入が増加した場合には、地方交付税が減額されると理解している。

**答** 町長 固定資産税の税収が増加した場合、その内75%が基準財政収入額に算入され、

結果として地方交付税の額が減少する。残りの25%の部分が実質的な本町にとつての増収となる。

## 岸本中学校の水道水の水質異常について

**問** 岸本中学校の生徒から「水が変な味がする」「臭いが気になる」「歯磨きのうがいをしただけで吐き気がした」との話を聞いた。

学校施設における水道水の水質検査の実施状況および、この問題に対してどのような対策を考えているのか。

**答** 教育次長 「学校保健安全法」に基づき「学校環境衛生基準」が定められている。基準に従って年1回の水質検査を実施している。臭気が若干認められるが、基準値を超える有害物質は検出されていない。給水管の老劣化が主な原因であると考え、給水管更新に向けての改修計画を検討中である。



岸本中学校の手洗い場

# 風力発電計画に対する 町長の判断は

**町長** 議会の意見を踏まえ

できるだけ早期に判断



そのやま 其山 もりよし 守美 議員



ユーチューブ  
動画は  
こちらから

**問** 巨大風車が二部・溝口地区に密集して設置されるようになってきている風力発電計画について、町長の考えは。

**答** 町長 事前の相談もなく大規模な計画変更がなされたことについて、不信感を感じている。風車の巨大化と山林開削だけを考えても、土砂災害などへの懸念がさらに増大するものと考えている。

**問** 町長は、風力発電計画に対してどのような判断をするのか。また、その時期は。

**答** 町長 法令に則った対応をするのが原則だが、現段階では、まだその対応が出来ないと考える。伯耆町としての意思を求められれば、議会の考えや事業説明会の状況等を踏まえな

がら、出来るだけ早期にしかるべき判断をしたいと考えている。

**休園中の二部保育所の活用を**

**問** 休園している二部保育所の再開の見通しと、今後の活用計画は。

**答** 町長 二部地区の出生数を見たとき、保育所の再開は難しいと考える。二部保育所の今後の施設活用については、地域の人の意見を聞きながら検討していきたい。

**問** 官民連携のモデル事業として、保育園留学（※1）に取り組む考えはないか。

**答** 町長 保育等の受け入れ態勢が確保できるように



休園中の二部保育所

あれば、検討は可能。二部地区を想定すると、森のようちえん「michikusai」と連携し保育の受け入れ態勢が確保できれば、可能性はある。移住施策として、保育園留学を考えてみたい。

**今後の学校の在り方について検討を**

**問** 小規模特認校制度（※2）の導入検討の考えは。

**答** 教育長 今後の学校の在り方については、様々な角度から慎重に検討するべきと考える。児童生徒数が減少傾向にある溝口中学校区については、学校運営協議会からの要望もあり、今後、組織を設置し、学校の在り方について多面的に議論を始めていく予定。

（※1）保育園留学とは：保育園や移住体験施設などの既存施設を活用しながら、子育て世代をターゲットに、豊かな自然の中での移住体験や保育体験を行うもの

（※2）小規模特認校制度とは：通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく、当該市町村内のどこからでも就学を認めるもの

# 風力発電事業計画への懸念

町長 住民への説明方法

内容が不十分



おおもり えいいち 議員  
大森 英一



ユーチューブ  
動画は  
こちらから

**問** 風力発電事業者に対して、伯耆町議会が要請した事業説明で気になる点があった。その一つに、大規模な計画変更にも関わらず、災害リスクの具体的な説明がなかった。町長の風車建設によるリスクへの認識を伺う。

**答** 町長 風車の大型化も含め、自然、動物への影響、土砂



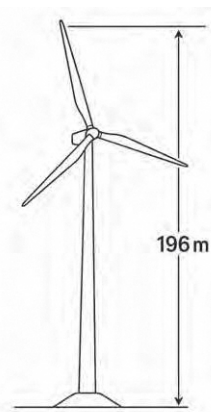
建設予定のイメージ

災害は引き続き存在し、リスクは高まるものと認識している。

**問** 国内陸上風力発電として前例のない規模と高さだが、急峻な山間部そして鎌倉断層の近くだが、建設計画に対しての認識を伺う。

**答** 町長 計画変更後の内容は国内最大で、法令によって認可を受けるといふものの、稼働実績がない計画に不安を感じている。

**問** 事業は事業関係法令によって建設が行われる一方、町



民の生命財産は地方自治法に守られる。町長は事業推進、あるいは事業反対のどちらのスタンスを取るのか。

**答** 町長 民意を踏まえ慎重に判断し、しかるべき時に表明するのが行政のトップとしての責任であると考えます。

**問** 建設予定地の影響を抱える自治会から、計画変更の説明が一切ないことや、現状でもため池に土砂流入があり、これ以上増えれば管理不能で米作りができなくなるとの訴えがあった。農家への影響について、認識を伺う。

**答** 町長 そうした声は聞いている。詳細を示す資料が提供されておらず、正確には分からない。最近の異常気象で農業

分野には、災害リスクの可能性は高まりつつあり、大きな懸念がある。

**問** 全国の風力事業例では住民の直接発言・提案の場が多い。また、自治体と事業者が協定を結び、地域計画と事業が連動している。このような事例と本事業との違いをどう評価されるか伺う。

**答** 町長 本事業は誘致企業ではなく、紹介の事例とはスタート段階で大きく違い、本町にとつては寝耳に水といった感がある。事業者からは、当地の送電網が選定された理由と聞いており、おのずと違う。当初から住民への説明が不十分であり、住民の皆様にご公開の場でしたり説明するよう求めている。



風力発電所のイメージ

# 集落放送に LINEの併用を

**町長** 一律に導入・補助  
することは難しい

**問** 集落単元にLINEを導入し、情報発信の選択肢を広げ、「行政情報の見える化」を全体的に推進すべき。運用には有料版にする必要性があり、それに対し町補助の考えはないか。

**答** 町長 町公式LINEは導入に向け検討を行っている段階であり、多様な情報発信や個別配信が可能で、防災などにも有効と考える。一方で、集落単位でのLINE活用は町が一律に導入・補助することは難しいが、既に取り組む集落もあるので、今後、町の公式LINEを導入した際には活用を進めつつ、地域ごとの工夫を尊重し連携を図っていきたい。



はせがわ みつる  
長谷川 満 議員



ユーチューブ  
動画は  
こちらから

**問** 集落DXとして、区費のキヤッシュレス化による電子マネーの導入支援、スマホ講習など、町が集落へサポートできることは。

**答** 町長 電子マネーの導入については、手数料の発生などの面でも集落での合意形成がまずは必要。スマホ講習会の実施などでリテラシーの向上を継続していくことは必要。

**全国レベルのジュニアアスリートへさらなる支援を**

**問** 「伯耆町スポーツ推進支援事業補助金交付要綱」を定

め、町内に住所を有する個人や町長が認めた町内の団体に補助金の交付をしているが、町外の団体に所属している児童生徒については、補助の対象外となっている。やりたい種目の団体が町内に存在せず、やむを得ず町外に出ている児童生徒がいる現状を認識しているか。

**答** 教育長 町外のクラブチームで活動する生徒がいることは把握している。この問題は、国の進める中学校部活動の地域連携・地域移行とも密接に関わっており、国が示したガイドラインは原則「受益者負担」を前提としており、地方自治体にとっては大きな課題である。今後は、令和8年度からスタートする国・県の新たなガイドラインの策定状況を注視し、近隣市町

**問** 近隣の自治体ではすでに独自補助を行っているが、同様な補助を検討する考えはないか。

村との連携も含めた広域的な視点と、町内体育団体との兼ね合いなどを慎重に検討したい。

**答** 町長 子どもたちへの投資は未来への投資であり、現行の補助事業の有効性、効率性、公平性を担保したものとなるよう、しっかりと検討し、見直していく時期になったと認識している。町の姿勢として、国や県の動向に左右されず、次世代を担う子どもたちの努力を応援する支援の検討を十分に進めてまいりたい。



# 基金を活用した 更なる物価高騰対策を

**町長** 他の財源を活用して  
対策を図る

**問** 全国消費者物価指数6月分は、前年同月比3.3%の上昇となっており、依然として物価の上昇が町民の暮らしに大きな影響を与えている。

また、今夏の猛暑を受けた、冷房設備使用のための電気代の増加も見込まれ、ますます町民の生活に影響を与える。

直ちに取り組むべき課題である、物価高騰に見舞われる町民の家計への支援として、財政調整基金（令和6年度末残高9億9,800万円）を活用した支援策は。

**答** 町長 財政調整基金は、著しい財源不足、災害発生時に使用するものとして積み立てている。

物価高騰対策の必要性は承知しており、対策措置を講じてい

るが、その財源としては繰越金など他の財源を使用する。

## 主な基金の残高（令和6年度末）

基金名	残高
財政調整基金	9億9,800万円
伯耆町豊かなふるさと創造基金	7,500万円
地域振興基金	11億円
国民健康保険財政調整基金	8,800万円



もりした かつひこ  
森下 克彦 議員



ユーチューブ  
動画は  
こちらから

## 標語柱などの適切な管理を

**問** 伯耆町の幹線道路である国道181号線沿いに、町の姿勢を示した標語柱、観光マップ看板を設置しているが、経年

による文字や表示物のかすれが生じ、目視が難しく、効果が果たせない状況となっている。適切な管理を行うべき。

- ・大江地内
- 「シートベルト着用推進の町」
- ・上細見地内
- 「人権尊重宣言の町 伯耆町」
- ・吉定地内
- 「伯耆町周辺観光マップ」

**答** 町長 各所にある標語柱などについて、効果、必要性、表示内容を確認して管理に努める。



大江地内：標語柱

# 土砂災害等の防止に 向けた取り組みは

**町長** 森林の多面的機能維持を図るため  
保全管理を推進する



ながい きんや 議員  
永井 欣也



ユーチューブ  
動画は  
こちらから

**問** 本町面積の約7割を占める森林は多面的機能を持つ。今後の保全や森林管理の考えは。

**答** 町長 水源かん養や土砂災害防止など住民生活に重要な役割を担う。引き続き有効な財源を確保しながら、森林の保全管理を推進したい。



二部大谷川砂防堰堤

**問** 二部地区は土砂災害(特別警戒区域)の指定が多い。

**答** 町長 ハザードマップは平成31年に作成されたもの。来年度更新予定。

**問** 二部大谷川は砂防堰堤が2か所も設置されたが、町のハザードマップでは特別警戒区域が解除されていない。

**答** 町長 砂防施設の完成で特別警戒区域から外れたが、土砂災害警戒区域ではあり、引き続き防災の観点から注視する。

**問** 砂防堰堤は流域面積等々を勘案しながら設計される。流域での開発行為等への対応は。

**答** 地域整備課長 制度上、上流域全体が砂防指定地に指定。

二部大谷川の指定エリアは鳥取県砂防指定地等管理条例が適

用される。流域内での開発行為には知事の許可が必要。

砂防施設に影響を及ぼす可能性を踏まえると、開発行為自体が難しいのではないかと考える。

**問** 文化財の保護・保存・活用の推進を

**答** 教育振興基本計画における文化財の保護・保存・活用の取り組みは。

**問** 教育長 地域文化の継承、学びの場の提供と考えている。

**答** 町長 文化財の保護・保存・活用

また、今般、矢田貝家住宅(国登録有形文化財)の庭園が県指定文化財に指定された。文化財有効活用新たなスタイルにならないかと期待している。

**問** 二部(間地)地内の「三軒屋古墳」は指定されていないが、指定あるいは登録文化財の現況確認の方法は。

**答** 教育長 町在住の文化財保護指導員が年9回巡視、県や本町へ報告いただく。必要に応じて、専門職員が確認にも。

「三軒屋古墳」は、町内で確認されている約600ほどの遺跡の一つ。

**問** 過去の発掘調査で出土した遺物や民俗資料等整理の進み具合は。

**答** 教育長 遺物はコンテナで約1,200箱、民俗資料は約1,000点。整理作業を進めているが、終了時期の計算が立たない。

岸本公民館ギャラリーコーナー企画展などに貸し出したい。



三軒屋古墳開口部

# 切れ目のない 乳幼児健診を

## 町長 フォロー体制の充実と

### 関係機関連携を検討する



すぎもと だいたすけ 議員  
杉本 大介



ユーチューブ  
動画は  
こちらから

**問** 各健診の目的と“連続性”は。

**答** 町長 月齢・年齢に応じ、発育・栄養の確認から社会性・自己統制の評価へ移行する。保健師が母子健診初期から継続に関わり、未受診家庭には個別訪問でフォローするなど、切れ目のない支援を重視している。

**問** 未受診者対応やアフターフォローは。

**答** 健康対策課長 保健師の継続支援に加え、赤ちゃん相談日、訪問ケア、保育所訪問相談、にこにこ親子教室、医療機関連携などを組み合わせ、母子の不安軽減と安定を図っている。

**問** 保護者の反応は。

**答** 健康対策課長 にこにこ親子教室の満足度は高い。継続参加でスタッフとの関係が深まり、特性の受け止めが進み、医療受診の心理的ハードルも下がっている。

**問** 5歳児健診の意義と本町の歩みは。

**答** 町長 旧町時代から継続。就学時健診だけでは準備期間が短い課題を補う。関係者で情報共有し、必要に応じ医療や支援につなぐ「就学支援検討連絡会」を運用し、入学までの支援体制を整えてきた。

**問** 5歳児健診の主な実施内容は。

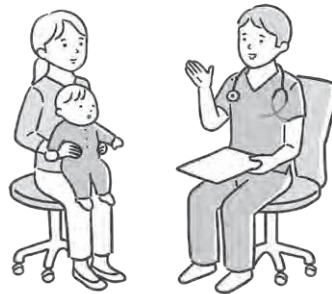
**答** 健康対策課長 年6回程度実施している。身体計測・問診、スポットビジョンによる視力、小児神経科医の診察と就学助言、早期支援コーディネーター相談、歯科指導、希望により臨床心理士相談。保育所担任の同席とカンファレンスで支援方針を共有している。



歯科指導の様子

**問** 課題は。

**答** 健康対策課長 小児神経科医の確保が課題。圏域内で調整しており、実施回数が増加が難しい状況にある。



小児科神経外科医による診察イメージ

**問** 国の令和5年度“推進予算化”による変化と今後の展望は。

**答** 健康対策課長 補助金は活用するが、鳥取県は従前から全市町村で5歳児健診に取り組んでおり、内容の大きな見直しはない。

**答** 町長 健診後のフォロー体制の一層の充実と、関係者連携の強化を検討する。



# 県畜産共進会 和牛グランドチャンピオン 初栄冠！ 宮崎大地さん (25)



伯耆町で畜産を始めたきっかけは？

北海道の大学で畜産を学んでいたときに妻と出会い、結婚を機に伯耆町へ移住しました。学生のころから牛が好きで、高校も農業系。自然とこの道を選び、現在は就農二年目です。

今の牧場はどのような形で運営されていますか？

現在は繁殖牛を中心に飼育しています。伯耆町でも昔は1〜2頭ほど牛を飼っている家が多かったそうですが、今は規模の大きい牛舎を持つ農家は少なくなっています。就農にはノウハウや費用もかかるため、補助金の制度を活用しながら、役場や農協と何でも話し合いを重ねて実現しました。



県中央家畜市場で笑顔の宮崎夫妻とあずさ号  
(写真提供 全農鳥取県本部)

日々の仕事の中で大変なこと、やりがいを感じることは？

昨年は天候が悪く、本当に苦労しました。それでも牛の成長を見守りながら、自分の努力が少しずつ形になる瞬間にやりがいを感じます。今回のグランドチャンピオン獲得も、自分の取り組みが間違っていないかと思われられる瞬間が一番うれしいですね。

若い人たちに畜産をどう伝えたいですか？  
また今後の目標は？

今の農業は「やめた方がいい」と言われがちですが、実際はやり方次第で十分に夢のある仕事です。牛と向き合う毎日には地道ですが、自分で時間をつくれる自由さもあります。好きなことを仕事にできるという意味では、とても恵まれた職業だと思います。

自身の目標としては、2年後に開催となる全国和牛能力共進会（北海道大会）での入賞を目指したいです。



伯耆町勢が和牛各区で首席独占

## 表紙のみどころ



溝口中学校で新しく取り組まれた臨床美術の製作「全員美術」の時間。モザイクアートのように個々のアートの作品をつなげ、大きく華やかで、美しい巨大なステンドグラスの絵に仕上がりました。

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

### 【編集】

- 議会広報常任委員会
- 委員長 大床 桂介
  - 副委員長 塔田 信二
  - 委員 永井 欣也
  - 委員 長谷川 満
  - 委員 杉田 真也
  - 委員 其山 守美



この議会だよりは再生紙を使用して印刷されています。